

優 秀 賞

水満ちて緑を映す維摩池の小道を辿りさみどりに入る

秋田 智美

「選者寸評」 維摩池に映っている木々の深い緑と、散歩道沿いの若草のさみどりとふたつの「みどり」を対比させた表現がいいですね。事象を淡々と詠う、余分なことは言わない歌作りに共感します。ところでどなたと歩いたのでしょうか？ 失礼、余分なこと言いました。

梅雨の間の降りみ降らずみ紫陽花の花芯に光る昨夜^{ゆふべ}の雫

野田 恵美子

「選者寸評」 梅雨時でも雨は降ったり止んだりします。雨の上がった朝、紫陽花の中央にある花芯に昨夜の雨の雫が光っている。細かいところまでしっかり見ている、目のつけどころに歌人の可能性を感じます。紫陽花の本当の花はどの部分なのか、勉強させていただきました。

朝日浴びイナゴのようにサーファーが日南の海立ち飛び舞うや 井本 孝一

「選者寸評」 朝日を浴びたサーファーの動きを俯瞰している作者は、三つの動詞を使ってたたみかけて表現し、躍動感を生みました。またその動きはまるでイナゴの大群のようだと言います。巧みな比喩とスケールの大きさに圧倒される歌です。イナゴを知らない世代はググってください。